

苫小牧市の福祉政策に関する要望書

日頃より医療・介護・福祉活動等、市民の暮らしを重点課題として取り組む市政を運営いただき敬意を表します。無料低額診療対象者への調剤薬局にかかる費用助成は本来、国が無料低額診療の改善も含めて実施すべきものであるにもかかわらず、苫小牧市が市民を守る立場で実践されていることに当院としても心より感謝しております。

今年度、当院が医療活動を実践してきた中で下記の点について要請・懇談を行いたいと考えております。お取り計らいいただけますよう、よろしく願い申し上げます。

1. 無料低額診療事業の普及とさらなる充実のお願い

今年度は無料低額診療対象者の薬代助成について、より多くの方に利用してもらうために、市職員のみならずと当院の懇談をご提案頂くなど、苫小牧市としても誰もが医療をうけることができるように努めていただいたことに感謝を申し上げます。当院は社会福祉協議会や勤医協福祉会有償ボランティア、道央健康友の会と懇談や連携を深めることで、生活困窮者が増えている実態を改めて認識し、無料低額診療の更なる周知の必要性を感じています。

一方で、生活保護基準を満たしていない患者さんにとって、無料低額診療制度を継続して利用できることは重要なことであると当院は考えています。大きな課題は、薬代助成が無料低額診療の新規患者に限り、最大1年間で終了してしまうということです。治療が継続できれば生活の質を維持できるものの、治療の中断が余儀なくされる事例をなくし、誰もが安心して薬物療法を受け続けられるように、最大1年間となっている薬代助成について、延長をご検討いただけますようお願いをいたします。

2. 子ども医療費助成拡充のお礼と継続したご検討のお願い

2024年8月より子ども医療費助成の対象を18歳まで拡充される方針をお持ちいただきありがとうございます。苫小牧市規模の自治体が高校生までの通院助成を実施することは、市長の大きなご決断があった事と思えます。当院にも無料低額診療の対象となる就学援助世帯の方が受診するケースもありましたが、小児科の標榜がないため、子どもたちへの医療の安全性を懸念していたところです。また、この制度拡充により眼科や耳鼻科など、小児に多く見られる疾患の治療にも誰もが安心してかかることができるようになることを期待していますし、地域における子育てにおおきな力になることは間違いがないと考えています。

一方で、一般的には少額と言えるかもしれませんが、非課税世帯には一部負担金が発生します。道内各自治体の子ども医療費助成をみると芦別市、歌志内市、北斗市、赤平市は初診時一部負担金の徴収をしております。将来的には非課税世帯の一部負担金の徴収をしないことも、継続してご検討をいただきたいと要望いたします。

3. 介護タクシー事業者を増やす政策のお願い

苫小牧市における介護タクシー事業者は2023年9月にほくしょう運輸社が介護タクシー事業から撤退したため、現在2社（グリフィン介護タクシー・福祉介護タクシーサツエイ）のみとなっています。17万人都市の苫小牧市で介護タクシーが2台しかない現状は地域住民に「定期受診がますます困難になった」「介護タクシーの都合により転院・退院の日程が左右される」など影響が出ており、不安を与えています。また、医療機関や介護・福祉施設にも転院搬送を各病院が独自の努力で担う事も求められており、コロナ禍による業務負担増、コスト増に追い打ちをかけるものとなっています。

市としても状況を把握された上で早期にご対応いただきたいと要望します。同時に、介護タクシー事業が存続できるような、対象事業者への補助等のご検討もあわせてお願いいたします。

以上、よろしく願いいたします。